

科目名 Course Title	大学院共通授業科目(一般科目):複合領域		
講義題目 Subtitle	グローバル実践科目 I		
責任教員 Instructor	ホイットフィールド デールリー [WHITFIELD Dale Lee] (教育イノベーション機構)		
担当教員 Other Instructors	楊 梓桐 [YANG Zitong] (教育イノベーション機構)		
科目種別 Course Type	大学院共通授業科目	他学部履修等の可否 Open To Other Faculties / Schools	可
開講年度 Year	2026	期間 Semester	1 学期(春ターム)
授業形態 Type of Class	演習	単位数 Number of Credits	2
対象学科・クラス Eligible Department / Class	-	対象年次 Year of Eligible Students	-
時間割番号 Course Number	101229(火曜クラス) 101295(木曜クラス)	補足事項 Other Information	-
ナンバリングコード Numbering Code	IGS_IDS 9211		
大分類コード・名称 Major Category Code / Title	IGS_IDS・大学院共通授業科目(複合領域)		
レベルコード・レベル Level Code / Level	9・その他(海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目)		
中分類コード・名称 Middle Category Code / Title	2・キャリアマネジメント		
小分類コード・名称 Small Category Code / Title	1・キャリア開発		
言語 Language Type	英語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Course list by the instructor with practical experiences	-		
キーワード Key Words	<p>「3+1の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力および専門職倫理)、システム思考、超学際的共創、対立の転換、心理的安全性、責任あるイノベーション、チームダイナミクス、ファシリテーション、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、異文化コミュニケーション、リーダーシップ</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>複雑化する地球規模の課題に直面する現代において、専門知識のみでは効果的なリーダーシップを発揮することは困難です。本科目では、不確実性の中で針路を定め、学術的専門知識と実社会のニーズとの間にある溝を埋めるために「システム思考」を用い、「超学際的共創」の実践に取り組みます。徹底したアクティブラーニングを通じて、学生は自身のバイアス(偏見や先入観)を検証し、異文化間で効果的なコミュニケーションを行うことで、「能力更新力」を涵養します。また、心理的安全性を構築し、対立や葛藤を乗り越えて多様なグループを導くファシリテーションを行うことで、「組織形成力」を習得します。最終的に、学生はステークホルダーと協働して解決策を共に設計することによって、誠実さ・責任・社会的公正を重視する「専門職倫理」に基づき、「社会還元力」を発揮し、その能力を示します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本科目の履修を通じて、学生は新渡戸カレッジ「3+1 の力」の枠組みに基づいた自身の成長を示す具体的な「成果」を作成し、専門家としての能力開発を積極的に推進します。具体的には、以下の実践を通じてこれらを達成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目の前の状況への対症療法に留まらず、「システム思考」と「クリティカルシンキング(批判的思考)」を用いることで、複雑な問題の真の根本原因を特定します。</li> <li>2) 心理的安全性を育み、異文化コミュニケーションを実践して他者理解を深めることで、強固なチームダイナミクスを構築します。また、対立変容の技法を適用し、意見の相違や対立を建設的に解決します。</li> <li>3) クリエイティブシンキング(創造的思考)を用いて具体的なプロトタイプ(試作品)を作成し、「ファシリテーション」スキルを用いて多様なメンバーを共通の解決策へと導くことで、「超学際的共創」を実践します。</li> <li>4) すべての意思決定において協働パートナー(コミュニティ)の権利とウェルビーイング(幸福)が尊重されるよう、「責任あるイノベーション」の原則に従い、倫理的な「リーダーシップ」を発揮します。</li> </ol>		

## 授業計画 Course Schedule

本科目は全 8 回のモジュールで構成されており、システム思考を「超学際的共創」の実践的枠組みに組み込んでいます。学生は自己省察から出発し、多様なチームを率いて複雑なシステム課題を解決するまでのプロセスを段階的に学びます。「グローバル実践科目 I」は、火曜日および木曜日の 5・6 限(16:30 – 19:45)に開講されます。学生は火曜日から木曜日のいずれかを選択し、毎週、選択した曜日の授業のみ出席してください。

### 第1週 コースオリエンテーションと自身のバイアスの理解 (4月14・16日)

専門分野を超えた効果的な協働には、個人の背景がどのように視点を形成するかを認識することが不可欠です。本セッションでは、チーム内での信頼醸成と誤解防止のため、自身の「盲点」を特定します。また、コースの構成、目標、新渡戸カレッジの教育理念との関連性を説明するオリエンテーションも兼ねています。

### 第2週 全体像を捉える (4月21・23日)

複雑な問題を解決するには、表面的に見える現象を超えて、システム内の根本的なつながりを理解する必要があります。「システム思考」の視点を通して、学生は問題の根本原因を特定する方法を学び、一時的な対処ではなく、持続的な変化をもたらす解決策を導き出します。

### 第3週 安全なチームを築く (4月28・30日)

高いパフォーマンスを発揮するチームは、メンバーが批判を恐れずにリスクを取り、失敗を経験できる環境でこそ成長します。「心理的安全性」を育むことで、学生は信頼関係を迅速に構築し、文化的境界を越えて効果的にコミュニケーションを行う能力を身につけます。

### 第4週 アカデミア外の知の尊重 (5月12・14日)

真のイノベーションは、貴重な専門知識がアカデミアの外にも存在することを認めることから生まれます。「モード 2 の知識」の概念を取り入れることで、学生はコミュニティの知恵を尊重し、実社会のニーズに効果的に対処する解決策を導き出せるようになります。

### 第5週 対立をイノベーションに変える (5月19・21日)

多様なチームにおいて対立は避けられませんが、効果的に管理されれば、それは創造性を促す原動力となります。「関係性知能(Relational Intelligence)」を養うことで、学生は意見の不一致を建設的に乗り越え、潜在的な摩擦をイノベーションへと転換できるようになります。

### 第6週 アイデアを形にする (5月26・28日)

複雑なアイデアを言葉だけで伝えようとすると、協働はうまくいきません。「ラピッドプロトタイピング」を用いて「境界オブジェクト」を作成することで、学生は専門分野間の溝を埋める具体的なモデルを構築し、全員が同じビジョンを共有できるようにする方法を学びます。

### 第7週 誠実な設計と実践 (6月2・4日)

倫理的な関りには、善意だけでは不十分で、力関係(パワーダイナミクス)と責任に対する明確な理解が必要です。「コミュニティベースの参加型リサーチ(CBPR)」の原則を通じて、学生は対等なパートナーシップを築き、関わるコミュニティを守るための倫理的境界線を定める方法を学びます。

### 第8週 ラピッド・コ・クリエーション・ラボ (6月9・11日)

実社会において、効果的なリーダーシップには、限られたリソースの中で迅速に行動することが求められます。本セッションでは、学生たちは時間的制約の下でシステム的な問題に取り組むために協働し、それぞれのスキルを組み合わせることで高精度のプロトタイプを開発します。なお、本セッションは「グローバル実践科目 II」の第1回目も兼ねています。

## 準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

学習の質を確保するため、学生は各授業の前後において、授業への能動的な参加に向けた資料の確認や、コンピテンシーの向上を正確に記録するための毎週の「リフレクティブ・エビデンス・ログ」(「成績評価の基準と方法」参照)の推敲など、予習・復習に取り組むことが求められます。本科目の主要な課題は授業時間内に完了するように設計されていますが、学生はこれらの活動のために授業外の時間を充てるのが推奨されます。なお、欠席者や、コンピテンシーレベルの向上を目指して評価課題の修正・再提出を希望する学生は、これらの課題に自主的に取り組む必要があります。

## 成績評価の基準と方法 Grading System

本科目では、コンピテンシー評価モデルを採用しており、学生は毎週提出する「リフレクティブ・エビデンスログ」を通じて、特定の専門的スキルを実際に示す能力で評価されます。学習負担を適切に管理できるよう、評価は授業時間内に実施できるよう設計されており、学生が作成・提出するための時間を確保しています。

エビデンスログは、新渡戸カレッジ「3+1 の力」の 27 の観点に基づくプロフェッショナル・ポートフォリオの基盤となり、グローバルリーダーを目指す全人的な学びの一部となります。各観点は 0 から 4 までの 5 段階のコンピテンシースケールで評価されます。これは成長を促す学習過程であるため、学生はフィードバックに基づいてログを修正・再提出し、履修を通じてコンピテンシーレベルを高めていくことが推奨されます。

## テキスト・教科書 Textbooks

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided when necessary.

## 講義指定図書 Reading List

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided when necessary.

## 参照ホームページ Websites

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>, <https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/>

## 研究室のホームページ Websites of Laboratory

特記事項なし

## 備考 Additional Information

履修登録システムでの登録に加え、本科目を履修予定の学生は、以下の申請フォームを提出すること(締切:4月8日(水)9:00): <https://forms.gle/6f1X6g7YyK6dNkcw8>

申請者には、4月9日(木)に、初回授業の詳細およびポートフォリオシステムの利用手順についてメールで連絡する。

プレプログラムガイダンス

日本語:4月3日(金)17:00-18:00

英語:4月6日(月)17:00-18:00

場所:北海道大学フロンティア応用科学研究棟2階セミナー室

履修登録に関する情報や関連資料は、以下の web サイトを参照すること:

[https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/preprogram\\_enrollment](https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/preprogram_enrollment)

修士課程・専門職学位課程の学生:

本科目は、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムに進むためのプレプログラム科目の一部として開講します。プレプログラム科目 2 科目の履修・修得が、オナーズプログラム大学院カリキュラムへの入校要件の一つとなります(新渡戸カレッジへの入校申込みは任意)。

博士(後期)課程の学生:

本科目を履修可能です。ただし、オナーズプログラムに進むことはできません。履修希望者多数の場合、修士・専門職学位課程の学生を優先して調整を行うことがありますので、あらかじめご了承ください。

本科目に関する問い合わせ先: [nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp](mailto:nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp)